

町の誇りを日本の誇りへ

大鳥圭介生誕地保存会

基本データ

大鳥圭介没後100年の平成23年に向けて、圭介を地域の誇りとして顕彰しようという機運が高まり、地元自治会役員により組織された。圭介の生家を建て替え整備した「いきいき交流ふるさと館」には地域内外から人が集まり、ふれあいの場となっている。

連絡先

住所：赤穂郡上郡町岩木丙445-1
 (いきいき交流ふるさと館)
 TEL：0791-52-4605 (赤松公民館)
<http://ootori.cosmos2016.net>



(左から) 岡馬進さん、橋本数広さん、猪尾守之塾長、小林登喜夫圭介保存会長、小林万里さん

要点

- 近代日本の礎を築いた大鳥圭介は上郡町の出身
- 生誕地にある「いきいき交流ふるさと館」には偉業を伝える資料の数々
- 「大鳥圭介検定」も開催し、圭介の想いを現在にも伝えている

— 上郡町出身の偉人・大鳥圭介とは

上郡町役場前に威厳を持ちたたずむ銅像がある。近代日本の礎を築いた郷土の誇り「大鳥圭介」像である。圭介は天保3（1832）年に現在の上郡岩木石戸地区に生まれた。医師を目指して閑谷学校や適塾などで学ぶ。旗本に取り立てられ、歩兵奉行にまで昇進し、戊辰戦争では箱館戦争まで戦い抜いた。維新後は、新政府にも優秀さを買われ、大蔵小丞などを歴任。工部省では伊藤博文に引き抜かれ、技術官僚として殖産興業政策に貢献し、工部大学校長、学習院長、工部美術学校校長を務めるなど後進の育成にも励んだ。その後、外交官となり日清戦争の外交交渉にもあたり、男爵を授けられた。

— 保存会の活動内容は

圭介の生誕地にある「いきいき交流ふるさと館」では圭介に関する資料を展示している。圭介の偉業を語り継ぐとともに圭介を通じて住民同士の交流も図っている。「日本中の人に偉大さを知って欲しい」と「大鳥圭介検定」も開催。何よりも、地元の西播磨の人たちに圭介の生涯を学ぶことで時代を超えた圭介の「想い」を学んでほしい。



写真 (左) いきいき交流ふるさと館 (右) いきいき交流ふるさと館内の展示資料



(左) 大鳥圭介像 (上郡町役場前) (右上) 大鳥圭介塾の様子 (右下) 大鳥圭介まつり (5月) の様子

感想

大鳥圭介が、近代日本の礎を築いた偉大なる功績はあまり知られていないことを案じる地元の皆さん方が、地域の誇りとして顕彰すべく熱意を込めて活動する取り組みに感動を覚えます。